

大阪公立大学大学院理学研究科

地球学専攻・理学部地球学科

2024 年度 年次活動報告

大阪公立大学が設立 3 年目を迎え、地球学科は 15 名の専任教員と 2 名の特任講師を含む計 17 名の体制で、教育・研究、大学運営業務、アウトリーチ活動に積極的に取り組んでまいりました。2024 年度末には、地球学科および地球学専攻から、20 名の学士号取得者および 13 名の修士号取得者が巣立ち、その門出を教職員一同で祝いました。

2024 年度には、大学院生向け講義「サイエンス・フロンティア A・B」を実施し、8 名の客員研究教授を招聘しました。また、学術交流を促進する「オープン・サイエンス・フロンティアセミナー」も開催し、さらに海外から 10 名の研究者を受け入れるなど、地球学の教育・研究の国際化を一層推進しました。

年間行事としては、4 月に新入生と教員・在学生との交流を目的とした歓迎会を高原記念館にて開催しました。8 月にはオープンキャンパスを実施し、9 月には 1 年生を対象とした地球学野外実習を行いました。実習では、近畿地方における多様な地質現象を現地で観察・学習し、地球のダイナミズムを実感する貴重な体験となりました。

2025 年度からは、理学国際教育研究センター (IREC) の地球学分野に、サンブッダ・ダル先生を専任教員としてお迎えします。ダル先生は、地球学科および地球学専攻の教員を兼任され、本学科の学際的研究のさらなる発展に大きく寄与されることが期待されます。また 2025 年秋には、森之宮キャンパスが本格的に稼働を開始し、本学における教育・研究の中核拠点となる予定です。地球学科教員一同は、知の探究、新たな課題への挑戦、そして学科・大学院課程のさらなる発展に向けて、今後も尽力してまいります。

(2024 年度地球学科長 RAGHAVAN Venkatesh)

< 目 次 >

1. 地球学専攻・地球学科の構成および研究内容		3. 地球学専攻・地球学科の研究活動	
1.1. 専攻・学科の構成	1	3.1. 2024 年度研究業績	5
1.2. 構成員の研究内容	1	3.2. 2024 年度海外研究等	10
1.3. 2024 年度学部生、院生数	2	3.3. 2024 年度研究補助金等	11
2. 地球学専攻・地球学科の教育活動		3.4. 2024 年度受賞	11
2.1. 学部・大学院教育	3	3.5. 2024 年度メディア掲載情報	11
2.2. 2024 年度カリキュラム、集中講義等	3	4. 地球学専攻・地球学科の関係行事	
2.3. 2024 年度卒業論文、修士論文、博士論文	3	4.1. 2024 年度各種行事	12
2.4. 2024 年度教員の兼職	4		

1. 地球学専攻・地球学科の構成および研究内容

1.1. 専攻・学科の構成

「地球進化学講座」と「地球環境学講座」から構成されます。地球進化学講座は「地球物質学」、「岩石学」、「地球史学」の 3 分野から、地球環境学講座は、「第四紀自然学」、「地球物理学」、「地球情報学」、「自然災害科学」の 4 分野からなります。地球学専攻の教員は 15 名です。他に特任講師 2 名が所属します。2022 年度から学部 1 年生の入学定員は 24 名 (推薦 4 名、前期 16 名、後期 4 名) と増えました。地球学専攻の博士前期課程の募集人員は 15 名、博士後期課程の募集人員は 3 名です。

1.2. 構成員の研究内容

1.2.1. 地球進化学分野

(1)地球物質学分野 (Mineralogy)

鉱物の X 線・電子線回折、各種分光法を用いた分析、合成実験と装置開発、データ解析のためのソフトウェアの開発を通じて、鉱物やそれらを含む岩石の生成と進化を研究する。

篠田 圭司 [教授] X 線回折と各種分光法を用いた鉱物の研究

瀬戸 雄介 [准教授] 惑星物質の化学組成、結晶構造、微細組織の解析

古城戸 佑太 [M1] 千葉石の合成と評価

(2)岩石学分野 (Petrology)

同位体から超大陸やマントルまで、現在から地球誕生の 46 億年前までの広い時間、空間を研究対象として、地球物質の構成や変化とそれらの規則性を岩体、岩石レベルで研究する。

奥平 敬元 [教授] 地殻ダイナミクス: 下部地殻の変成・変形作用

柵山 徹也 [准教授] マグマの生成、分化過程とマントルの物質循環過程

木村 光佑 [特任講師] 西南日本内帯オフィオライト質岩のジルコン年代学

Kang Minjae [D1] 韓国済州島玄武岩マグマの岩石学的研究

吉岡 拓郎 [D1] 淡路島花崗斑岩中の石英の CL 像の成因

吉村 雪香 [M2] 阿武単性火山群のメルト包有物の研究

近藤 光 [M1] 佐渡島小木半島及び山口県見島ピクライト質玄武岩の生成過程

津田 あすか [M1] ノルウェー、エッズフィヨルドにおけるシェードタキライトの形成条件

山本 翔太 [M1] 和泉地域の小断層解析に基づく古応力場の復元と活動史の考察

(3)地球史学分野 (Earth History)

地球表層部の地層や化石に残されている記録を手掛かりにして、地球の歴史をひもとく、地球の誕生から現在、未来への地球環境の変遷史を解明する。

江崎 洋一〔教授〕地球・生物環境変遷史、化石刺胞動物の系統

足立 奈津子〔教授〕礁生態系の変遷様式と地球表層環境の変動

桑原 希世子〔准教授〕放散虫化石の古生物学

船場 大輝〔D2〕鳥巢式石灰岩の構成要素と形成様式

守川 翔太〔M2〕石灰岩中のサンゴ化石を用いた画像の自動抽出法の開発

前田 宗孝〔M2〕北中国のカンブリア系上部の微生物岩の形成様式の解明

岸田 明生〔M2〕カンブリア紀サンゴの原地性生活様式の三次元復元

張本 太成〔M2〕郡上八幡セクションにおけるペルム紀チャンシンジアン放散虫化石の大きさの経時変化と海洋環境

石川 魁人〔M1〕群体四射サンゴの成長と秋吉生物礁の形成

廣畑 輝幸〔M1〕美濃帯舟伏山地域初鹿谷層の再堆積ドロストーン組織

1.2.2. 地球環境学講座

(1)第四紀自然学分野 (Quaternary Research)

現在を含む最も新しい地質時代（第四紀）における、地層に記録された自然環境の変遷や自然への人為的影響を解明し、過去から現在までの自然と人との関係や自然環境の利用のあり方を考える。

井上 淳〔教授〕第四紀学、環境地質学

伊藤 有加〔准教授〕地表環境の変遷と人間活動との関係
林 尚輝〔特任講師〕植物珪酸体による植生変遷の解明
岩寄 広大〔D3〕台湾新化丘陵の第四紀層の層序と哺乳類化石の研究

井原 佑弥〔M2〕和歌山県生石高原の累積性土壌における植物珪酸体・微粒炭分析

田中 陶子〔M2〕琵琶湖堆積物における 1.5 万年前以降に認められる TOC 濃度と微粒炭の増加について

池田 勇輝〔M1〕微粒炭分析の自動解析化手法の確立と琵琶湖堆積物を用いた過去 30 万年間の火災史の復元

牛田 彩〔M1〕神戸市池堆積物コアにおける球状炭化粒子・アスベスト・化学組成分析

松田 颯哲〔M1〕遺跡での植物珪酸体・微粒炭分析

大原 脩也〔M1〕南九州における植物珪酸体分析にもとづく古植生の復元と火山噴火の植生への影響

楊 牧川〔M1〕堆積物の球状炭化粒子分析による過去約 100 年間の大気環境評価

(2)地球物理学分野 (Geophysics)

地球で起きている地殻変動の理解に向けて、地震活動や断層運動などの現象を対象に、天然断層岩の組織観察や分析、断層岩模擬物質を用いた室内実験と、これらの結果に基づいた数値シミュレーションを行う。

廣野 哲朗〔教授〕断層と地震の物質科学、付加体地質学
福田 惇一〔准教授〕構造地質学、岩石力学

木下 芳樹〔M1〕四万十帯日高川層群美山累層三尾メラ

ンジュにおける構造地質学的調査

久戸瀬 稔〔M1〕室内摩擦実験による断層内の boundary shear の発達過程の解明

(3)地球情報学分野 (Geoinformatics)

情報科学的観点から地球に関する情報や理論を有機的に統合することにより、諸現象の関係性や法則性、地球情報の論理構造などを研究する。

ラガワン ベンカテッシュ〔教授〕地球情報の数値化とコンピュータ処理

根本 達也〔准教授〕地球情報の利活用方法

植田 允教〔D3〕機械学習による斜面崩壊自動抽出手法の開発

Ibrahim Danlami Mohammed〔D2〕地球物理学的手法、AHP および機械学習を用いた地下水ポテンシャルゾーンの推定

Lam Tran Tung〔D1〕地すべり感受性マッピングのアルゴリズムの開発

末安 史弥〔M2〕津波浸水域の推定に関する手法の開発
Job Jose Thomas〔M2〕衛星画像の時空間解析を用いた海岸線変化の抽出

中村 公亮〔M1〕機械学習による地形特徴を考慮したリニアメントの自動抽出

藤原 義友〔M1〕高度変化抽出のための干渉 SAR による数値表層モデルの精度向上

小島 壮介〔M1〕建物壁面における日射量推計手法に関する研究

前田 敦〔M1〕地すべりの危険度マップに関する研究

(4)自然災害科学分野 (Natural Hazards Geoscience)

地震・噴火・地すべり等の自然現象やその随伴事象について、地球学の視点に基づく調査・研究を行う。

三浦 大助〔教授〕巨大噴火・小規模噴火と火山災害

奥野 充〔教授〕地質学・地形学・年代学による噴火史・自然災害科学

大下 愛央〔M2〕複数地点ボーリング調査による蛇石大池湿原と宇生賀盆地の湿原形成史に関する研究

西川 空〔M2〕複数地点のコア層序による八丁平湿原と池ヶ原湿原の堆積環境史に関する研究

濱田 明知〔M2〕恵山火山における完新世水蒸気噴火の地質学的研究

黒木 瞭〔M2〕五島列島福江島、鬼岳火山の形成過程に関する地形・地質学的研究ならびに秋田県湯沢市のコケ沼湿原の形成史に関する研究

林 優樹〔M1〕十和田八戸火砕流堆積物の年輪年代学

平田 俊也〔M1〕白山火山南竜ヶ馬場の湿原堆積物の地質学的研究

新地 青空〔M1〕霧島市国分地域における火砕流堆積物の層序と湧水の湧出機構

松原 巧樹〔M1〕隠岐島前火山における岩脈群の形成メカニズム

1.3. 2024 年度学部生、院生数

2024 年度に在籍した公大・地球学科、市大・地球学科と府大・物理科学課程（地球科学分野）の学生数、公大院・地球学専攻、市大院・生物地球系専攻（地球科学分野）と府大院・物理科学専攻（地球科学分野）の院生数（社

会人，外国人留学生数を含む）を表1に示します。

表 1. 所属学生数

学 部	1 年	2 年	3 年	4 年		合計
	25	26	23	26		100
大学院	M1	M2	D1	D2	D3	合計
	22	14	3	0	3	42

2. 地球学専攻・地球学科の教育活動

2.1. 学部・大学院教育

〔学部〕

2024年度の地球学科入学生は25名（募集定員は24名）でした。地球学科では多様な学生募集（入学試験）を行っています。募集の詳細については追って大学のホームページ等で案内します。2025年度の地球学科の募集人員は、2024年度と同じく次の通りです。

推薦入学: 募集人員 4名

一般選抜（前期日程）: 募集人員 16名

一般選抜（後期日程）: 募集人員 4名

〔大学院〕

博士前期課程の試験は例年8月下旬と2月上旬の2回行われます。博士後期課程の4月入学は2月上旬に試験が行われ、10月入学は9月上旬（博士前期課程の日程と同じ）に試験が行われます。また、博士前期課程では研究能力の秀でた学生を入学させ、優れた研究者・技術者を育成する目的で、推薦入学特別選抜を7月に実施しています。博士後期課程では研究意欲旺盛な社会人が在職しながら正規の大学院生として在学できる社会人特別選抜制度を実施しています。今年度も若干名を募集する予定ですので、関係の研究室にお問い合わせください（試験日程は募集要項を確認してください）。

2.2. 2024 年度カリキュラム，集中講義等

地球学科教員が担当する科目を，基幹教育科目（表2）、地球学科提供の専門科目（表3）、および大学院地球学専攻の科目（表4）ごとに示します。また、大学院の集中講義は、表5の通りです。（* は大阪市立大学地球学科での開講科目）

表 2. 基幹教育科目 (担当のカッコ内は非常勤講師)

科 目 名	担 当 者	単位数
地球学への招待	桑原, (山口)	2
地球学入門	桑原, (升本)	2
地球学基礎A *	足立他	2
地球学基礎B *	根本他	2
地球学実験A *	福田他	2
地球学実験B *	瀬戸他	2
地球学実験C	柵山他	1

表 3. 学部専門科目 (担当のカッコ内は非常勤講師)

年次	科 目 名	担 当 者	単位数
1 年	地球学概論A	ラガワン他	2
	地球学概論B	篠田他	2
	地形・地質投影法	井上, 奥平	2
	地質調査法1	足立他	2
	測量及び地質調査法1実習	足立他	2
	地球学野外実習1	奥野他	2
2 年	地質調査法2	根本他	2
	測量及び地質調査法2実習	根本他	2
	地球学野外実習2	柵山他	2
	地球物質学1	瀬戸, 篠田	2
	地球物質学1実習	瀬戸, 篠田	1

2 年	岩石学1	奥平, 柵山	2
	岩石学1実習	柵山, 奥平	1
	堆積・層序学	井上, 伊藤	2
	堆積・層序学実習	井上, 伊藤	1
	地球情報学1	根本, ラガワン	2
	地球情報学1実習	根本, ラガワン	1
	古生物科学	江崎, 足立	2
	古生物科学実習	江崎, 足立	1
	固体地球物理学1	廣野, 福田	2
	固体地球物理学1実習	福田, 廣野	1
3 年	自然災害科学1	奥野, 三浦	2
	自然災害科学1実習	奥野, 三浦	1
	地球学演習A	主任, 全教員	2
	地球学演習B	主任, 全教員	2
	地球物質学2	篠田, 瀬戸	2
	地球物質学II実習*	篠田, 瀬戸	1
	岩石学2	奥平, 柵山	2
	変動帯テクトニクス	三浦, 奥野, 奥平	2
	地球史学	江崎, 足立	2
	地球生物学*	足立	2
4 年	物理探査学概論*	(山口)	2
	地球情報学1	根本, ラガワン	2
	地球情報学2	根本, ラガワン	2
	地球情報学1実習	根本, ラガワン	1
	固体地球物理学2	廣野, 福田	2
	自然災害科学2	奥野, 三浦	2
	測量及び測地学	根本, ラガワン	2
	地球学卒業演習	主任, 全教員	2
	地球学演習IV*	主任, 全教員	2
	特別研究*	全教員	10

表 4. 大学院科目 (地球学専攻)

課程	科 目 名	担当者	単位数
博 士 前 期	第四紀自然学特論 A	伊藤	2
	第四紀自然学特論 B	井上	2
	地球物理学特論 A	廣野	2
	地球物理学特論 B	福田	2
	地球情報学特論 A	ラガワン	2
	地球情報学特論 B	根本	2
	自然災害科学特論 A	三浦	2
	自然災害科学特論 B	奥野	2
	地球物質学特論 A	篠田	2
	地球物質学特論 B	瀬戸	2
	岩石学特論 A	奥平	2
	岩石学特論 B	柵山	2
	地球史学特論 A	江崎	2
	地球史学特論 B	足立	2
	地球科学特論	桑原	2
	地球環境学特別演習	各教員	8
	地球進化学特別演習	各教員	8
	地球学特別研究	各教員	12
博 士 後 期	地球環境学ゼミナール	各教員	2
	地球進化学ゼミナール	各教員	2
	地球学特別研究	各教員	8

表 5. 大学院集中講義

科 目 名	担 当 者	単位数
地球環境学特別講義 A	三好 雅也 (福岡大学)	1
地球進化学特別講義 A	川野 潤 (北海道大学)	1

2.3. 2024 年度卒業論文，修士論文，博士論文

2.3.1. 卒業論文

(大阪市立大学理学部地球学科)

永井 健太, 琵琶湖堆積物における過去 2 万年間の珪藻化石殻数変動とその気候要因

永見 尋, 大阪湾岸域における人工物に付着した大気降下物中の球状炭化粒子 (SCPs) の粒子径解析による発生源推定

山路 健太郎, 植物珪酸体分析による古植生復元に基づく大阪府南部石川流域の低位段丘形成期の推定

米田 光希, ノルフェー北部エッズフィヨルドに産する斑れい岩中の斜長石の組織・粒径分布

岸本 真歩, 有馬-高槻断層帯沿いの粉碎花崗岩における粉碎粒子サイズのフラクタル次元解析

田原 理那, 島根県大根島における第四紀玄武岩質火山活動についての岩石学的研究

上阪 花梨, 兵庫県北西部に分布する第四紀火山玄武岩質マグマの含水量の推定

高麗 琉聖, 南海トラフ熊野沖における合成地震記録を用いた地下構造モデルの検証

福田 成, プレート境界断層の滑り時の粘性流動化の評価: 房総半島新第三系保田層群と紀伊半島白亜系日高川層群に発達する主滑り帯を例として

別所 縁, 日本海溝プレート境界断層及び周辺物質の脱水量と間隙水圧上昇の定量的評価

江草 朱音, モンゴル西部ゴビ・アルタイ県 *Zuune Arts* 地域の古杯類礁 (カンブリア系第二統) の特徴と構築様式

柴崎 勇真, 秋吉石灰岩 (石炭紀後期前期バシキリアン期) の礁に生息した生物の古生態の復元

福田 珠花, 有藻性キサソゴ科六射サンゴ (ウィスカーズコーラル) の出芽の規則性について

岩本 隆希, 敵対的生成ネットワークを用いた豪雨による斜面崩壊地の抽出

上村 透, 数値シミュレーションを用いた津波避難ビルにおける避難猶予時間分布の解析

酒井 勇希, 洪水シミュレーションを用いた動的な最短経路検索

高橋 陽希, 地殻変動に伴う地形面のフラクタル次元の変化

服部 快成, Sentinel-2 を用いたサンゴの健康状態評価

今井 琉雅, 過去の露頭写真からの露頭部分抽出とクラスタリング解析

平田 萌瑛, ハイキング関数を用いたマルチエージェントシステムによる避難シミュレーション

(大阪府立大学生命環境科学域理学類物理科学課程)

徳田 一真, 隠岐島前西ノ島の岩脈の形状と内部構造

中右 昇一, 隠岐島前知夫里島の岩脈の形状と内部構造

林 蓮太郎, 佐渡島赤玉における地すべり地形の詳細区分と堆積物の年代測定

松村 虹希, 地形・地質学的手法による神鍋火山の形成過程の復元

浅野 亮介, ペルム紀グアダルピアン世における放散虫化石 *Ruzhencevispongos* sp. B のサイズの変遷

2.3.2. 修士論文

黒木 瞭, 五島列島福江島, 鬼岳火山の形成過程に関する地形・地質学的研究

西川 空, 複数地点のコア層序による湿原の堆積環境史: 八丁平湿原と池ヶ原湿原を例として

大下 愛央, 複数地点ボーリング調査による湿原形成史: 蛇石大池湿原と宇生賀盆地を例として

濱田 明知, 恵山火山における完新世水蒸気噴火の地質学的研究

吉村 雪香, かんらん石メルト包有物を用いたマグマ生成過程の解明: 中国地方, 阿武単成火山群を例として

末安 史弥, Physics-Informed Neural Networks を用いた実地形における津波水位予測

Job Jose Thomas, Assessment and Forecasting of Shoreline Dynamics Using CoastSat and AMBUR"

守川 翔太, 中国山東省の張夏層から産出するカンブリア紀サンゴ *Cambroctoconus* の群体成長様式と内部構造の三次元復元

岸田 明生, 北中国山東省のカンブリア系張夏層から産するサンゴを含むスロンボライトの三次元復元 — 原地性の産状からの新知見 —

前田 宗孝, 北中国山東省済南市に分布する炒米店層 (フロンギアン統) の微生物岩と生物群の特性

張本 太成, 郡上八幡セクションにおけるペルム紀チャンシンジアン放散虫化石の大きさの経時変化と海洋環境

井原 佑弥, 和歌山県生石高原における土壌中の植物珪酸体・微粒炭分析による植生と火の歴史の解明

田中 陶子, 琵琶湖堆積物における過去 2 万年間の全有機炭素濃度と微粒炭量—更新世末期の全有機炭素と微粒炭の急増について—

2.3.3. 博士論文

Wang Qi (王 琦), Dominant Slip Systems of Naturally Deformed Quartz under the Mid-Crustal Conditions: Implications for Rheology of the Continental Crust.

2.4. 2024 年度教員の兼職

篠田 圭司
日本鉱物科学会英文誌「Journal of Mineralogical and Petrological Sciences」編集委員

瀬戸 雄介
日本鉱物科学会 Elements 幹事
日本鉱物科学会行事委員長
日本鉱物科学会論文賞選考委員
大阪大学 全学教育推進機構 非常勤講師
惑星科学センター協力研究員

奥平 敬元
日本地質学会近畿支部幹事
日本地質学会英文誌「Island Arc」Associate Editor
NPO法人大阪自然史センター理事
関西自然保護機構会誌編集委員
生物多様性保全ネットワーク専門部会委員

柵山 徹也
日本掘削科学研究コンソーシアム (J-DESC) 国際統合深海掘削計画 (IODP) 部会執行委員
地球掘削科学推進委員会科学支援評価専門部会委員
日本火山学会学会誌「火山」編集委員

江崎 洋一
日本学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会ICS小委員会委員
日本学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会IPA小委員会委員

日本古生物学会「Paleontological Research」編集委員
 足立 奈津子
 鳴門教育大学 非常勤講師
 日本古生物学会「化石」編集委員
 日本堆積学会行事委員
 日本地質学会堆積地質部会行事委員
 井上 淳
 日本第四紀学会評議員
 日本第四紀学会編集委員
 日本植生史学会会計監査
 関西自然保護機構運営委員
 関西自然保護機構会誌編集委員
 Progress in Earth and Planetary Science, Special Issue
 Guest Editor
 NPO 法人大阪自然史センター理事
 川西市生涯学習アカデミー講師
 伊藤 有加
 立教大学 兼任講師
 東京大学 客員連携研究員
 日本地理学会交流専門委員
 日本地球惑星科学連合 2024-2025 年大会学協会プログラム委員
 日本応用地質学会 ARC16 開催実行特別委員
 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術専門家ネットワーク専門調査員
 The GIS-IDEAS Journal, Editorial Board
 林 尚輝
 阪南大学 非常勤講師
 廣野 哲朗
 大阪高等裁判所・大阪地方裁判所, 専門委員
 大阪大学 全学教育推進機構 非常勤講師
 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター 科学技術専門家ネットワーク専門調査員
 原子力発電環境整備機構 技術アドバイザー委員会委員
 日本原子力研究開発機構 核燃料・バックエンド研究開発部門 深地層の研究施設計画検討委員会委員
 ラガワン ベンカテッシュ
 日本GIS学会・FOSS4G分科会代表
 International Journal of Geoinformatics, 共同編集者
 Applied Geomatics, Associate Editor, Editorial Board
 GIS-IDEAS International Conference, Chair
 日本情報地質学会評議員
 根本 達也
 産業技術総合研究所客員研究員
 産業技術総合研究所・地質図 J I S 改正原案作成委員会委員
 日本建設情報総合センター・地質データ標準化検討小委員会副委員長
 一般財団法人国土地盤情報センター評議員
 日本情報地質学会評議員
 GIS-IDEAS International Conference, Organizing Secretaries
 三浦 大助
 火山人材育成プログラム人材運営委員会委員
 即戦力となる火山人材育成プログラム人材運営委員会委員

和歌山県立自然博物館協議会・評価部会委員
 南紀熊野ジオパーク推進協議会学術専門委員会委員
 奥野 充
 日本地質学会「地質学雑誌」編集委員
 日本応用地質学会 火山小委員会委員
 長崎大学 非常勤講師
 福岡大学 非常勤講師
 原子力規制委員会原子炉安全専門審査会・核燃料安全専門審査会火山部会臨時委員
 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター専門調査員
 日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 ICS 小委員会委員
 名古屋大学宇宙地球環境研究所附属国際連携研究センター運営委員会委員

3. 地球学専攻・地球学科の研究活動

3.1. 2024 年度研究業績

地球学教室の教職員, 大学院生, 研究生などによる 2024 年度中に刊行された著書, 論文, 報告書および学会等の講演のリストを分野別にまとめました。

3.1.1. 地球進化学講座

(1)地球物質学分野

<学術雑誌等>

Fujiwara K., Mitsui T., Hasegawa N., Nishikino M., Kobayashi Y., Mibu K., Shinoda K., Masuda R., and Seto M. (2024) Three-dimensional surface analysis of iron-based materials using synchrotron Mössbauer source. Applied Physics Express 17, DOI: 10.35848/1882-0786/ad67a8
 Miyahara M., Noguchi T., Matsumoto T., Tomioka N., Miyake A., Igami Y., Seto Y., et al. (他 73 名) (2024) Microscopic slickenside as a record of weak shock metamorphism in the surface layer of asteroid Ryugu. Meteoritics and Planetary Science Volume 59, 3181 – 3192.
 Harries D., Matsumoto T., Langenhorst F., Noguchi T., Miyake A., Igami Y., Haruta M., Seto Y. et al. (他 70 名) (2024) Incipient space weathering on asteroid 162173 Ryugu recorded by pyrrhotite. Meteoritics and Planetary Science 59, 2134 – 2148.
 Noguchi T., Matsumoto T., Miyake A., Igami Y., Haruta M., Saito H., Hata S., Seto Y. et al. (他 81 名) (2024) Mineralogy and petrology of fine-grained samples recovered from the asteroid (162173) Ryugu. Meteoritics and Planetary Science 59, 1877 – 1906.
 Ohuchi T., Higo Y., Tsujino N., Seto Y., Kakizawa S., Tange Y., Miyagawa Y., Kono Y., Yumoto H., Koyama T., Yamazaki H., Senba Y. (2024) Geophysical Research Letters 51, 1116, e2024GL108356.
 Rapp L., Matsuoka T., Firestein K. L., Sagae D., Habara H., Mukai K., Tanaka K., Gamaly., Kodama R., Seto Y. et al. (他 13 名) (2024) Observation of high-pressure polymorphs in bulk silicon formed at relativistic laser intensities. Physical Review Research 6, 023101.
 <報告書, 雑報等>
 Shinoda K., Kobayashi Y., and Okuchi T. (2024) Mössbauer spectra and intensity tensors for Fe³⁺ and Fe²⁺ of bridgmanite. KURNS Progress Report (Kyoto Univ. Radiation and Nuclear Science Progress Report) 2023, PR1-3. (査読なし)

<学会講演>

福岡浩司, 磯部博志, 石丸聡子, 篠田圭司, 大鉢忠. 赤褐色黒曜石中の ε -Fe₂O₃の単磁区粒子. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/27.

瀬戸雄介. 動力学散乱理論に基づく電子回折/顕微像シミュレーションの開発と岩石鉱物学への応用. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/30.

中西悠輔, 尾崎典雅, 佐野孝好, 瀬戸雄介, 富岡尚敬, 兒玉了祐. Laser ultrahigh-pressure experiment on Chondrite-Type Allende meteorite. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/28.

兵頭政幸, 瀬戸雄介, ブラダック・バラージュ. 中国レス・古土壌試料を用いた土壌性magnetite/hematite生成の水熱実験. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/28.

篠田圭司, 小林康浩, 奥地拓生. ブリッジマナイトのメスバウアースペクトルとFe²⁺とFe³⁺の四極子ダブルレットピークの強度テンソル. [R1-02] 日本鉱物科学学会年会・総会, 名古屋大学, 2024/9/12.

大西政之, 下林典正, 浜根大輔, 篠田圭司, 久野武. 兵庫県新井鉱山産ラウテンタル石およびローウオルフ石の鉱物学的性質. [R1-P-10] 日本鉱物科学学会年会・総会, 名古屋大学, 2024/9/12.

瀬戸雄介, 大塚真弘. 動力学理論に基づく電子後方散乱回折のシミュレーション手法の開発と鉱物学への応用. [R2-16] 日本鉱物科学学会年会・総会, 名古屋大学, 2024/9/14.

(2)岩石学分野

<学術雑誌等>

Harada T., Kimura K., Hayasaka Y., Kawaguchi K. (2024) Zircon U-Pb ages and geochemical characterization of granitic mylonites in the Northern Zone of the Maizuru Belt, northern Okayama area, Southwest Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences* 119, 240616, DOI: 10.2465/jmps.240616.

Kimura K., Das K., Hayasaka Y. (2024) Petrogenesis and U-Pb zircon geochronology of alkali volcanic rocks in the Akiyoshi Terrane, SW Japan and their origin. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences* 119, 231222, DOI: 10.2465/jmps.231222.

奥平敬元 (2025) 石英の優先すべり系とその大陸地殻レオロジーへの影響. 地学雑誌 134, (印刷中).

Viegas G., Taufner R., Okudaira T., Hidas K., Menzel MD., Archanjo CJ., dos Santos Pereira Y., Peixoto de Souza C. (2024) Fracturing, comminution and grain-size-sensitive creep as a record of coseismic loading in the middle-crust: insights from the Urtiga mylonitic pluton (NE Brazil). *Journal of Structural Geology* 187, 105237, DOI: 10.1016/j.jsg.2024.105237.

<学会講演>

Kang Minjae, 柵山徹也, 清水健二, 牛久保孝行, 前田治紀. 揮発性成分を用いた韓国、済州島東部の単成火山の地球化学的研. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/26.

Kang M., Ushikubo T., Shimizu K., Ahn US., Sakuyama T. A Study on the Volatiles of Monogenetic Volcanoes, Jeju Island, South Korea. 37th International Geological Congress 2024, Busan BEXCO, Busan, Korea, August 28, 2024.

川口健太, 中野伸彦, 足立達朗, Ji Wan Jeong, Fransiska Ayuni Catur WahyuandariI, Kaushik Das, 室井颯太, 木村光佑. 古生代舞鶴花崗岩の全岩化学組成とジルコン U-Pb年代、Lu-Hf同位体組成. 日本地質学会第131年学術大会, 山形, 2024/9/8.

木村光佑, Kaushik Das, 早坂康隆. 秋吉帯石灰岩基盤のアルカリ火山岩中に含まれる高Ti黒雲母岩片とその意義. 日本鉱物科学学会2024年年会, 名古屋, 2024/9/13.

近藤 光, 坂根勇輝, 柵山徹也. 京都府丹後中新世ビクライト質玄武岩の生成過程. 日本火山学会2024年度秋季大会, 北海道立道民活動センター, 北海道, 2024/10/18.

Maeda H., Sakuyama T., Shimizu K., Ushikubo T., Hanyu T., Chang Q., Kang M. Geochemical Study on melt inclusion, Kannabe volcano, Japan. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/26.

柵山徹也, 藤田智大, 鈴木遼汰郎, 萩原悠介, 長岡信治, 栗谷 豪. 五島列島福江島第四紀火山群に産する玄武岩質マグマの成因. 日本火山学会2024年度秋季大会, 北海道立道民活動センター, 北海道, 2024/10/16.

曾田祐介, 森下知晃, 奥平敬元, 水上知行. 蛇紋岩化したダナイトに記録されたシリカ活動の変化. 日本地質学会第131年学術大会, 山形大学, 2024/9.

吉村雪香, 柵山徹也. 薩摩硫黄島の稲村岳における玄武岩質マグマの分化プロセス. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/26.

Yoshimura S., Sakuyama T. Primary magma composition of the Abu monogenetic volcano group using olivine melt inclusions in scoria. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/31.

吉村雪香, 柵山徹也, 清水健二, 牛久保孝行. 阿武単成火山群のスコリア中かんらん石メルト包有物の揮発性成分. 日本火山学会2024年度秋季大会, 北海道立道民活動センター, 北海道, 2024/10/16.

吉岡拓郎, 奥平敬元. EBSDおよびCL像により推定される破壊による石英の粒径減少過程. 2025 変成岩などシンポジウム青葉山大会, 東北大学, 2025/3/14.

吉岡拓郎, 高木秀雄. 領家変成帯の変成条件と構造発達史 中部地方高遠一駒ヶ根地域の例. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/30.

(3)地球史学分野

<著, 編書>

江崎洋一 (2024) 異放珊瑚類, 四放珊瑚類, テチス海, テチス生物群, ペルム紀末絶滅事変, 最新地学事典, 平凡社.

江崎洋一, 佐藤敏彦 (2024) 刺胞動物, 床板珊瑚類, 最新地学事典, 平凡社.

江崎洋一, 佐藤敏彦, 中井均 (2024) 八放珊瑚類, 六放珊瑚類, 最新地学事典, 平凡社.

<学術雑誌等>

Ezaki Y., Masui M., Nagai K., Webb G.E., Shimizu K., Sugama S., Adachi N., Sugiyama T. (2024) Post-Devonian re-emergence and demise of stromatoporoids as major reef-builders on a Carboniferous Panthalassan seamount. *Geology* 52, 825 – 829.

Kuwahara K., Yao A., Yao J. (2024) Late Permian radiolarian *Neobailiella caridroitii* assemblage from the Loufanggou, Guangyuan-Shangsi Area, Sichuan Province, China. *Revue*

de Micropaléontologie 85, 100784.

Tokuda Y., Kawakita S., Sentoku A., Ezaki Y., Tanaka N., Nagasawa S., Nakaguchi K., Yamaguchi S., Kondo Y., and Ohtsuka S. (2024) Influence of sipunculan (peanut worm) activity on orifice formation in scleractinian *Heterocyathus* for adaptation to soft substrates. *Scientific Reports* 14, 9817.

井龍康文, 足立奈津子, 山本和幸, 藤田和彦, 浅海竜司, 山野博哉, 高柳栄子 (2025) 生物礁 いろいろな時代, さまざまな生物. 日本サンゴ礁学会誌 26, 59 - 80.

張本太成, 菅森義晃, 桑原希世子 (2025) 菟原セクション (丹波帯) におけるペルム紀—三疊紀境界直前での放散虫化石 *Albaillella triangularis* の殻サイズ減少. 大阪微化石研究会誌, 特別号 第 18 号, 43 - 56.

桑原希世子, 八尾 昭, 姚 建新 (2025) 中国四川省北部の明月峽セクションの孤峰層から産するペルム紀グアダループ世放散虫. 大阪微化石研究会誌, 特別号 第 18 号, 25 - 41.

<学会講演>

足立奈津子, 上村葵, 江崎洋一, 刘建波, 渡部真人, Gundsambuu Altanshagai, Batkhuyag Enkhbaatar, Dorj Dorjnamjaa. モンゴル西部 Bayan Gol 層 (Cambrian Terreneuvian) から産するオンコイド-石灰質微生物類とオンコイドの形成-. 日本堆積学会 2024 年熊本大会, 熊本大学, 2024/4/21.

長尾亮佑, 仁木創太, 伊地知雄太, 吉田聡, 石原湧樹, 澤木佑介, 大野剛, 上野雄一郎, 足立奈津子, 平田岳史, 小宮剛. 地球史を通じたリン濃度の変遷. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 幕張メッセ, 千葉. 2024/5/29.

守川翔太, 江崎洋一, 竹田裕介, 岸田明生, 足立奈津子, 刘建波, 伊庭靖弘. カンブリア紀サンゴ *Cambroctoconus* の内部構造の三次元復元-隔壁構造の特徴的な形成様式. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学, 2024/6/22.

岸田明生, 江崎洋一, 竹田裕介, 守川翔太, 足立奈津子, 刘建波, 伊庭靖弘. カンブリア系スロンボライト中の隠棲空間の広がりと言語群体の密接な関係. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学, 2024/6/22.

足立奈津子, 守川翔太, 佐野晋一, 江崎洋一. 和歌山県由良地域に分布する鳥巢石灰岩 (上部ジュラ系〜最下部白亜系) から産する厚歯二枚貝礁の特性と形成環境. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学, 2024/6/22.

前田宗孝, 江崎洋一, 足立奈津子, 刘建波, 閻振. 山東省済南市鋼城区に分布する炒米店層 (フロンギアン統) の微生物岩の特性. 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学, 2024/9/9.

足立奈津子, 上村葵, 江崎洋一, 刘建波, 渡部真人, Altanshagai G., Enkhbaatar B., Dorjnamjaa D. モンゴル西部 Bayan Gol 層 (カンブリア系テレニュービアン統) のオンコイドに認められる空隙の特徴と起源. 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学, 2024/9/9.

江崎洋一, 増井充, 長井孝一, Webb G., 清水光基, 須蒲翔太, 足立奈津子, 杵山哲男. 石炭紀パンサラッサ海山における造礁生物としての層孔虫の復活と終焉. 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学, 2024/9/9.

Adachi N., Uemura A., Ezaki Y., Liu J., Watabe M., Altanshagai G., Enkhbaatar B., Dorjnamjaa D. Oncoids from the Cambrian Terreneuvian Bayan Gol Formation,

western Mongolia: changing communities of calcimicrobes and constriction of oncoids, The First International Conference of Biosedimentology (Wuhan, China), 2024/10/27.

大野理恵, 江崎洋一. キサンゴ科無藻性サンゴ *Dendrophyllia ijimai* で見られる主軸機能の置換とその意義. 日本古生物学会第 174 回例会, オンライン, 2025/01/25.

張本太成, 桑原希世子. 美濃帯郡上八幡セクションにおけるペルム紀末の放散虫殻サイズの変動. 日本古生物学会第 174 回例会, オンライン, 2025/01/25.

桑原希世子, 張本太成, 菅森義晃. 京都府亀岡市春日部地域の丹波帯層状チャートから見出された *Albaillella excelsa* 多産帯 (ペルム系楽平統). シンポジウム「千葉県の微化石〜ミクロな世界から知る房総半島の地質〜」・第 16 回放散虫研究集会合同大会, 千葉県立中央博物館, 2025/02/15.

3.1.2. 地球環境学講座

(1)第四紀自然学分野

<著, 編書>

井上淳 (2024) 「球状炭化粒子」, 「球状灰粒子」, 「微粒炭」. 地学団体研究会編, 地学事典 (第 4 版), 平凡社.

<学術雑誌等>

Inoue J., and Usuki T. (2024) Effects of particle size and pretreatment methods on the morphometry of grass charcoal particles: Implications for morphometric analysis of microcharcoal particles. *The Holocene* 35, 471 - 476.

Tsai C., Ito Y., Liu J., and Tokunaga T. (2024) The effects of land subsidence and its mitigating measures on shallow groundwater salinization in the low-lying coastal plain of East Japan. *Environmental Research Communications* vol. 6, DOI: 10.1088/2515-7620/ad5951.

<報告書, 雑報等>

林尚輝, 松田颯哲, 井上淳 (2025) 植物珪酸体および微粒炭分析. 矢田遺跡発掘調査報告, 82-90.

<学会講演>

林尚輝, 江口誠一, 江藤直. 鹿児島県竹島の植生変遷とその人間活動の影響. 第39回日本植生史学会大会, 2024/12.

林尚輝, 井上淳. 植物珪酸体分析による種子島の約10万年前以降の植生変遷の復元. 日本第四紀学会2024年大会, 東北大学, 2024/8.

井原佑弥, 林尚輝, 井上淳. 和歌山県生石高原における土壌中の植物珪酸体・微粒炭分析による植生と火の歴史の解明. 第39回日本植生史学会大会, 2024/12.

井上淳. 奈良県曽爾高原の堆積物記録から読み解く火入れの歴史と環境変遷. 地域自然史と保全研究発表会シンポジウム「関西の草原:現状と今後の課題」, 2025/3.

井上淳, 井原佑弥. 「黒い雨」気象・土壌WG, 黒い雨降雨域土壌の微粒炭分析 (予察). 日本地球惑星科学連合 2024年大会, 2024/05.

井上大悟, 伊藤有加, 徳永朋祥. 鳥取県米子市淀江地区の地下水流動系に関する検討〜転作田地域の窒素負荷の影響評価に向けて〜. 日本地下水学会 2024 年秋季講演会, 2024/9.

Ito Y. Utilizing the Open Geological Information Database. Science Frontier Geoscience Seminar, 2024/11.

岩寄広大, 河村愛, 河村善也, 張鈞翔, 三田村宗樹. 台湾

台南市菜寮地域産の第四紀哺乳類化石研究の現状と課題. 日本古生物学会 2024 年年会, 2024/6.

Iwasaki I., Kawamura A., Kim H., Kawamura Y., Chang C.-H., Mitamura M. Holocene terraces along the Tsailiao River: Lithofacies, chronology, and fossil assemblages in the terrace deposits, and neotectonic implications. “New Prospect on the Paleontological Research in Taiwan” International Conference, 2024/9.

向井中, 足立友紀, 東江直樹, 芝原雄司, 池上麻衣子, 八島浩, 福谷哲, 高宮幸一, 五十嵐康人, 井上淳, 栗原雄一. 金屏風 (洋金箔) は広島の前爆で発生した「黒い雨」で溶解した. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 2024/5.

Tsai C., Liu J., Ito Y., and Tokunaga T. Investigation of various salinity levels of the tidal river and its interaction with groundwater dynamics in the subsiding coastal plain, East Japan. The IAH World Groundwater Congress, 2024/9.

Tsai C., Ito Y., Liu J., and Tokunaga T. Assessing the effects of land subsidence on groundwater salinization in estuarine region of eastern Japan. AGU, 2024/12.

(2)地球物理学分野

< 学術雑誌等 >

Hirono T., Yano H., Oohashi K., Miyamoto T., and Ito A. (2024) Relationship of evolution of slip-surface structure in Indian sandstone to changes in friction coefficient for a wide range of slip rates. *Journal of Structural Geology* 184, DOI: 10.1016/j.jsg.2024.105167.

Tsuda K., and Hirono T. (2024) Fault rock properties and conditions produce variance in slip during earthquake rupture propagation at the Nankai Trough. *Tectonophysics* 890, DOI: 10.1016/j.tecto.2024.230483.

Fukuda J. (2024) Grain growth of camphor as a rock analogue: microstructural development and grain growth law. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences* 119:010, DOI: 10.2465/jmps.240229.

< 学会講演 >

福田成, 廣野哲朗. 丹波帯箕面付加コンプレックスにおける変形様式と流体との相互作用. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/28.

木下芳樹, 廣野哲朗, 石川剛志, 柵山徹也. 四万十帯日高川層群美山累層三尾メランジュにおける構造地質学-地球化学的特徴. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, 2024/5/28.

久戸瀬 稔, 廣野哲朗, 堤 昭人, 宮本英, 湯川諭. 室内摩擦実験と数値解析による断層内のboundary shearの発達過程の解明. 日本地震学会2024年度秋季大会, 新潟, 2024/10/21.

福田惇一. 岩石模擬物質として樟脳を用いた粒成長と流体移動のその場観察. 日本鉱物科学会2024年年会, 名古屋, 2024/9/13.

(3)地球情報学分野

< 著, 編書 >

Ueda M., Nemoto T., Raghavan V., and Masumoto S. (2024) Characterization of Topographic Changes Due to Rainfall-Induced Slope Failure Using LiDAR Data. *Geoinformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences*, Springer, 340-361.

< 学術雑誌等 >

Panumonwatee G., Choosumrong S., Pampasit S., Premprasit R., Nemoto T., and Raghavan V. (2025) Machine Learning

Technique for Carbon Sequestration Estimation of Mango Orchards Area using Sentinel-2 Data. *Carbon Research* 4, 1-13.

Ha Trung Khien, Tran Van Anh, Pham Quy Nhan, Ha Thi Hang, Khuc Thanh Dong, Nemoto T., and Raghavan V. (2025) Processing and Analyzing Multi-Source, Multi-Resolution Geospatial Data on Cloud Platforms for Some Environmental and Disaster Applications. *Proc. Intl. Conf. GIS-IDEAS 2024*, 69-78.

Tran Van Anh, Ha Trung Khien, Tran Hong Hanh, Khuc Thanh Dong, Truong Xuan Quang, Nemoto T., and Raghavan V. (2025) Investigating Land Subsidence by Processing Multitemporal SAR Time Series on Google Colab: Case Study in Camau City, Mekong Delta, Vietnam. *Intl. Conf. GIS-IDEAS 2024*, 125-136.

Nemoto T., Yamada T., and Raghavan V. (2025) Extracting Travel Distance and Slope Failure Height Using Oriented Bounding Box. *Intl. Conf. GIS-IDEAS 2024*, 89-94.

Wang C., Mao H., Nemoto T., He Y., Hu J., Li R., Wu Q., Wang M., Song X., and Duan Z. (2024) An Adaptive Process-Wise Fitting Approach for Hydrological Modeling Based on Streamflow and Remote Sensing Evapotranspiration. *Water* 16, 1-32.

Phasinam T., Phasinam K., U-kaew A., Piyathamrongchai K., Hataitara R., Raghavan V., Nemoto T., and Choosumrong S. (2024) Real-Time Monitoring and Positioning of Agricultural Tractors Using a Low-Cost GPS and IoT Device. *International Journal of Geoinformatics* 21, 111-120.

Ibrahim D., Nemoto T., and Raghavan V. (2024) Hydrogeophysical Analysis of Vertical Electrical Soundings for Groundwater Potential and Aquifer Vulnerability Evaluation in the Federal Capital Territory, Abuja, Nigeria. *International Journal of Geoinformatics* 21, 97-110.

Halefom A., He Y., Nemoto T., Feng L., Li R., Raghavan V., Jing G., Song X., and Duan, Z. (2024) The Impact of Urbanization-Induced Land Use Change on Land Surface Temperature. *Remote Sensing* 16, 1-23.

< 学会講演 >

Tran Tung Lam, Nemoto T., Raghavan V., and Xuan Quang Truong. Comparative Evaluation of Machine Learning Models for Zoning Slope Failure Suceptibility: A Case study of Yen Bai Province, VietnamBoxes. *FOSS4G-Asia 2024*, 2024/12/16.

Ueda M., Nemoto T., and Raghavan V. An Assessment of Rainfall Induced Slope Failure Morphology using Change Vectors and Random Forest Model. *FOSS4G-Asia 2024*, 2024/12/16.

Hataitara R., Choosumrong S., Piyathamrongchai K., Nemoto T., and Raghavan V. Flood Inundation model using itzi distributed hydrologic modeling tool: A case study in Phayao Province, Thailand. *FOSS4G-Asia 2024*, 2024/12/16.

Ibrahim D., Nemoto T., and Raghavan V. Hydrogeophysical Analysis of Vertical Electrical Soundings for Groundwater Potential and Aquifer Vulnerability Evaluation in the Federal Capital Territory, Abuja, Nigeria. *FOSS4G-Asia 2024*, 2024/12/16.

Tran Tung Lam, Nemoto T., Raghavan V., and Xuan Quang Truong. Investigation of Machine Learning Models for Slope Failure Suceptibility Zonation in parts of Yen Bai Province, Vietnam. *GIS-IDEAS 2024*, 2024/12/12.

Ueda M., Nemoto T., and Raghavan V. Identification of Morphological Features in Slope Failure Areas due to Heavy Rainfall Using Change Vector Analysis and Random

Forest Classifier. GIS-IDEAS 2024, 2024/12/12.

Nemoto T., Yamada T., and Raghavan V. Extracting Travel Distance and Slope Failure Height Using Oriented Bounding Boxes. GIS-IDEAS 2024, 2024/12/12.

Ueda M., Nemoto T., and Raghavan V. Identification of Slope Failure by Random Forest using Topographic Characteristics Changes. 37th International Geological Congress 2024, 2024/8/29.

Tran Tung Lam, Nemoto T., Truong Xuan Quang, and Raghavan V. Evaluating machine learning models for landslide susceptibility mapping in Yen Bai Province, Vietnam. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

Thomas J., Nemoto T., and Raghavan V. Assessment and prediction of shoreline change using free and open source CoastSat & AMBUR toolkits. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

藤原義友, 根本達也, ベンカテッシュ ラガワン. Sentinel-1A 干渉 SAR を用いて生成された数値表層モデルの精度評価. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

末安史弥, 高岡凌門, 根本達也, ベンカテッシュ ラガワン. 破堤時間を考慮した津波浸水の数値シミュレーション. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

小島壯介, 根本達也, ベンカテッシュ ラガワン. 3D都市モデルと Ray-casting を用いた壁面日射量計算プログラムの開発. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

中村公亮, 根本達也, ベンカテッシュ ラガワン. Canny Edge 検出と Hough 変換を用いた地形特徴からのリニアメントの自動抽出. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

前田敦, 根本達也, ベンカテッシュ ラガワン. AHP 法を用いた新潟県中越地方における地すべり危険度マッピング. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

根本達也, 山田大雅, ベンカテッシュ ラガワン. 有向バウンディングボックスを用いた斜面崩壊の到達距離と比高の抽出. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

櫻井健一, 米澤 剛, 根本達也, 升本眞二. ボーリング交換用データを用いた地層対比システムの検証. 第 35 回日本情報地質学会講演会, 横浜, 2024/6/28.

(4)自然災害科学分野 【自然災害】

<著, 編書>

荒牧重雄, 三浦大助 (2024) 熊野酸性岩 地学事典 (第 4 版 増補改訂版), 平凡社.

村田守, 三浦大助 (2024) 大峯酸性岩類 地学事典 (第 4 版 増補改訂版), 平凡社.

<学術雑誌等>

奥野充, 鳥井真之, 原勇貴, 松田博貴, 黒木瞭, 西川空, 平田竣也, 安永裕紀, 遠田晋次 (2024) 令和6年能登半島地震による輪島市市ノ瀬町猿谷の地すべり地形の詳細区分. 自然災害科学 43 (3), 599-604. DOI: 10.24762/jndsj.43.3_599

奥野充 (2024) 放射性炭素年代から知る噴火年代: その表記法・暦年較正・測定試料. 火山 69(4), 191-198. DOI:

10.18940/kazan.69.4_191

<報告書, 雑報等>

下司信夫, 後藤芳彦, 金子克哉, 三浦大助, 長谷川健, 富島千晴, 柴田翔平 (2024) 第8回IAVCEI陥没カルデラワークショップ研究集会報告. 火山 69, 79-86. DOI: 10.18940/kazan.69.2_79

<学会講演>

Nakanishi T., Okuno M. Tephra identification and radiocarbon marine reservoir effects from a sediment core in the Oki Islands, northwestern Japan. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ, 千葉, ハイブリッド, 2024/5.

奥野充, 鳥井真之, 松田博貴, 安永裕紀, 黒木瞭, 西川空, 平田竣也, 原勇貴, 遠田晋次. 令和6年半島地震による輪島市・市ノ瀬町の斜面崩壊プロセス—地形・地質調査の予的報告—. 日本応用地質学会関西支部特別講演会・研究発表会, 大阪公立大学, 2024/5.

黒木瞭, 奥野充, 藤木利之, 中西利典, 林田明. 佐賀県唐津市, 樫原湿原の形成過程と人間活動. 日本応用地質学会関西支部特別講演会・研究発表会, 大阪公立大学, 2024/5.

三浦大助, 石坂 望, de Silva S. マグマ噴出率を用いたカルデラ活動期の分類 (序報): 西南北海道火山地域の事例. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-1, 大阪公立大学, ハイブリット, 2024/6.

西川空, 奥野充, 大下愛央, 黒木瞭, 藤木利之, 中西利典, 林田明, 鳥井真之, 洪完. 京都北山, 八丁平湿原の完新世の堆積環境史: 複数地点のコア層序による検討. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-1, 大阪公立大学, ハイブリット, 2024/6.

大下愛央, 奥野充, 西川空, 黒木瞭, 藤木利之, 中西利典, 林田明, 鳥井真之, 洪完. 群列ボーリング調査による阿武単成火山群, 宇生賀盆地の埋積過程. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-1, 大阪公立大学, ハイブリット, 2024/6.

中村俊夫, 奥野充, 佐藤鋭一, 伊藤茂, 加藤和浩, 佐藤正教, 廣田正史, 山形秀樹, Zaur Lomtadze. アリューシャン列島ウナラスカ島の考古学遺跡資料から推定される海洋放射性炭素リザーバー効果. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-1, 大阪公立大学, ハイブリット, 2024/6.

奥野充, 鳥井真之, 松田博貴, 安永裕紀, 原勇貴, 遠田晋次, 黒木瞭, 西川空, 平田竣也. 輪島市, 市ノ瀬町の令和6年能登半島地震による崩壊地形. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-1, 大阪公立大学, ハイブリット, 2024/6.

黒木瞭, 奥野充, 黒木貴一. オープン点群データを用いた地形判読の試み: 五島福江島, 鬼岳火山群の活動史. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-1, 大阪公立大学, ハイブリット, 2024/6.

奥野充. 火砕流堆積物の埋没樹木の¹⁴Cウイグル・マッチングのレビュー: To-H, Hr-FP, B-Tmを例として. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-1, 大阪公立大学, ハイブリット, 2024/6.

Okuno M., Torii M., Kawaguchi M., Toda S., Yoshimi Y., Takahashi N., Ishizawa T., Aotsuka R., Ichikawa Y., Fujii M., Ida T., Yoshida T., Sakurai M., Hara Y., Kugimiya Y., Matsuyama H., Abe K., Terasawa S. Radiocarbon dating on the cutting of access road to the Kumamoto Earthquake Museum, SW Japan. 4th International Conference on

- Radiocarbon in the Environment (RE-IV), Lecce. 2025/9.
- Okuno M., Sato E., Lim R., Rivera D. J., Bariso E., Quilalang-Gemal M. T., Dizon E., Garong A., Castro A., Tashiro T., Nakaoka R., Yamagiwa K., Tanaka K. Holocene tephra and their AMS ^{14}C age of Iraya Volcano in northern Philippine. 4th International Conference on Radiocarbon in the Environment (RE-IV), Lecce. 2025/9.
- 濱田明知, 三浦大助. 恵山火山完新世水蒸気噴火堆積物の熱水変質鉱物. 日本火山学会2024年秋季大会, 札幌, 2024/10. DOI: 10.18940/vsj.2024.0_122
- 松原巧樹, 大窪元貴, 三浦大助. 蘭法華岬にみられる完新世テフラ-登別(倶多楽)火山起源の可能性-. 日本火山学会2024年秋季大会, 札幌, 2024/10. DOI: 10.18940/vsj.2024.0_113
- 黒木瞭, 奥野充, 黒木貴一, 五島福江. 鬼岳火山の活動: スコリア丘の崩壊と再建. 日本火山学会2024年秋季大会, 札幌, 2024/10. DOI: 10.18940/vsj.2024.0_187
- 奥野充, 石賀敏, 中岡礼奈, Auer Andreas, 小林哲夫. 大山火山の完新世噴火史(予報). 日本地形学連合, 鳥取大学, ハイブリット, 2024/11/3.
- 新地青空, 奥野充, 高嶋洋. 霧島市国分 地域における火砕流堆積物の層序と湧水の湧出機構. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2.
- 西川空, 大下愛央, 黒木瞭, 奥野充, 藤木利之, 中西利典, 林田明, 鳥井真之, 洪完, 鹿島薫, 南雅代. 複数地点のコア層序による湿原の堆積環境史: 八丁平湿原と池ヶ原湿原を例として. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2.
- 大下愛央, 西川空, 黒木瞭, 奥野充, 藤木利之, 中西利典, 林田明, 鳥井真之, 洪完, 鹿島薫, 南雅代. 複数地点ボーリング調査による湿原形成史: 蛇石大池湿原と宇生賀盆地を例として. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2.
- 林優樹, 奥野充, 木村勝彦, 南雅代. 十和田八戸火砕流の埋没樹幹の年輪計測. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2.
- 松村虹希, 奥野充. 地形・地質学的手法による神鍋火山の形成過程の復元. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2.
- 黒木瞭, Minjae Kang, 柵山徹也, 奥野充, 黒木貴一. 地形・地質からみた五島列島福江島, 鬼岳火山の形成過程. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2.
- 片岡涼, 佐藤鋭一, 中村俊夫, Virginia Hatfield, 奥野充. アラスカ州ウナラスカ島, マクシン火山の完新世の噴火推移. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2/9.
- 中村俊夫, 奥野充, 佐藤鋭一, Virginia Hatfield, Kale Bruner, 伊藤茂, 佐藤正教, 廣田正史, 山形秀樹, Zaur Lomtadze. アリューシャン列島アマクナック島の考古遺跡UNL-055から発掘された木炭と貝殻の ^{14}C 年代. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2/9.
- 黒木瞭, 林優樹, 平田竣也, 奥野充, 藤木利之, 中西利典, 林田明, 南雅代. 秋田県湯沢市, コケ沼湿原のコア試料層序. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2/9.
- 林蓮太郎, 奥野充, 中西利典, 林田明, 南雅代. 佐渡島赤玉における地すべりの地形区分と堆積物層序
- 藤木利之, 林蓮太郎, 奥野充. 佐渡島杉池から採取された堆積物の花粉分析結果(予報). 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2/9.
- 鹿島薫, Liang Chi Wang, 奥野充, 大下愛央, 西川空, 林田明, 中西利典, Ericson Bariso, Robjunelieaaa Lim, Danikko John Rivera, Marie Thess Quilalang, Raymond Patrick Maximo, Valerie Shayne Olfindo, Jason Edward Cochon, Arian Paul D. Norcio, Aljhon Q. Marco, Cheska Joi G. Vergara. パイタン湖 50 mコアから得られた珪藻遺骸群集(予報). 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2/9.
- 平田竣也, 黒木瞭, 奥野充, 藤木利之, 中西利典, 林田明, 南雅代. 白山火山, 南竜ヶ馬場湿原のコア試料層序. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2/9.
- 奥野充, 石賀敏, 中岡礼奈, Auer Andreas, 小林哲夫. 大山火山の完新世噴火活動. 国際火山噴火史情報研究集会 2024-2, 福岡大学, ハイブリット, 2025/2/9.
- 奥野充, 鳥井真之, 川口允孝, 高橋直也, 石澤堯史, 市川八州夫, 吉見瑤子, 原勇貴, 遠田晋次. 熊本地震震災ミュージアムKIOKUへのアクセス道路法面におけるAMS ^{14}C 年代測定. 令和5年度自然災害研究協議会西部地区部会研究発表会, 九州大学, 2024/2/28.
- 黒木瞭, 林優樹, 平田竣也, 奥野充, 藤木利之, 中西利典, 林田明, 南雅代. 秋田県湯沢市, コケ沼湿原のコア試料層序と年代. 第36回(2024年度)名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム, 名古屋大学, ハイブリット, 2024/2/28.
- 中村俊夫, 奥野充, 佐藤鋭一, Virginia Hatfield, Kale Bruner, 伊藤茂, 佐藤正教, 廣田正史, 山形秀樹, Zaur Lomtadze. 太平洋最北端のアリューシャン列島海域の海洋炭素リザーバー効果の評価と海産物試料の暦年較正. 第36回(2024年度)名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム, 名古屋大学, ハイブリット, 2024/2/28.
- 林優樹, 奥野充, 木村勝彦, 南雅代. 十和田八戸火砕流の埋没樹幹の年輪計測結果と今後の研究計画. 第36回(2024年度)名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム, 名古屋大学, ハイブリット, 2024/2/28.

3.2. 2024年度海外研究等

3.2.1. 教員外国出張

- 江崎 洋一, 中国山東省のカンブリア系微生物岩の野外調査, 2024/5/5-12.
- 江崎 洋一, 中国山東省のカンブリア系微生物岩の野外調査, 2025/3/15-22.
- 足立 奈津子, 中国山東省のカンブリア系微生物岩の野外調査, 2024/5/5-12.
- 足立 奈津子, 中国, 武漢, The First International Conference of Biosedimentology に出席・発表, 2024/10/25-30.
- 足立 奈津子, 中国山東省のカンブリア系微生物岩の野外調査, 2025/3/15-22.
- ラガワン ベンカテッシュ, タイ, 国際学会GIS-IDFEAS

2024・FOSS4G ASIA 2024の準備委員会および共同研究打合せ, 2024/9/17-23.
 ラガワン ベンカテッシュ, イタリア, ミラノ工科大学の博士論文審査に参加, 2024/11/3-8.
 ラガワン ベンカテッシュ, タイ, 国際学会GIS-IDFEAS 2024およびFOSS4G ASIA 2024に出席・発表, 2024/12/7-19
 根本 達也, タイ, 国際学会GIS-IDFEAS 2024・FOSS4G ASIA 2024の準備委員会および共同研究打合せ, 2024/9/17-23.
 根本 達也, タイ, 国際学会GIS-IDFEAS 2024およびFOSS4G ASIA 2024に出席・発表, 2024/12/7-19.
 奥野 充, フィリピン, バタン島イラヤ火山の地形・地質調査, 2024/8/12-17.
 奥野 充, レッチェ, イタリア, 4th International Conference on Radiocarbon in the Environment (RE IV) に出席・発表, 2024/9/21-29.
 奥野 充, 台湾北部, 大屯火山群の地質・地形調査, 2024/12/5-9.
 奥野 充, フィリピン, バタン島イラヤ火山の地形・地質調査, 2025/2/16-22.

3.2.2. 大学院生, 研究生海外派遣

Kang Minjae, 大韓民国釜山および済州島, International Geological Congress 2024 参加および試料採取, 2024/8/26-9/4.
 Lam Tran Tung, タイ, 国際学会 GIS-IDFEAS 2024 および FOSS4G ASIA 2024 に出席・発表, 2024/12/8-19.
 Ibrahim Danlami Mohammed, タイ, 国際学会 GIS-IDFEAS 2024 および FOSS4G ASIA 2024 に出席・発表, 2024/12/8-19.
 岩寄 広大, 台湾, “New Prospect on the Paleontological Research in Taiwan” International Conference 招待講演および現地調査, 2024/9/7-15.
 植田 允教, タイ, 国際学会 GIS-IDFEAS 2024 および FOSS4G ASIA 2024 に出席・発表, 2024/12/7-19.
 前田 宗孝, 中国山東省のカンブリア系微生物岩の野外調査, 2024/5/5-12.
 守川 翔太, 中国山東省のカンブリア系微生物岩の野外調査, 2024/5/5-12.
 吉岡 拓郎, 台湾, 台湾師範大学での学術交流, 2025/1/8-18.

3.3. 2024 年度研究補助金等 (代表者)

瀬戸 雄介, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), 動力学計算と機械学習を組み合わせた新しいEBSD 解析手法の開発.
 奥平 敬元, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), 上部地殻のレオロジーを支配する石英の優先すべり系の確定.
 柵山 徹也, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), ユーラシア大陸東縁部, 背弧～超背弧域上部マントルの温度・含水量履歴の解読
 江崎 洋一, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), 後期カンブリア紀における生物多様性の実態ー古生代最初期の放散事変の解明ー.
 足立 奈津子, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), 礁生態系の変遷から探るエディアカラ紀-カン

ブリア紀境界での微生物類礁の転換の背景.
 井上 淳, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), アーカイブとしての堆積物を用いた阪神大震災時のアスベスト放出状況の評価.
 井上 淳, 公益信託タカラ・ハーモニストファン ド 2024 年度助成事業 (研究の部), 和歌山県生石高原における草原の歴史と火入れの役割についてー累積性土壌の植物珪酸体と微粒炭分析に基づいて.
 伊藤 有加, 研究支援員制度補助金, 大阪公立大学 2024 年度研究支援員制度.
 林 尚輝, 日本学術振興会科学研究費補助金若手研究, 最終氷期の九州南部における照葉樹林の分布.
 廣野 哲朗, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), プレート境界断層の鉱物組成不均一性が地震時の破壊伝播過程に与える影響の解明.
 根本 達也, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), 深層学習を用いた効率的な地層対比システムの開発.
 三浦 大助, 隠岐ユネスコ世界ジオパーク 2024 年度学術研究奨励事業, 隠岐島前火山, 苦鉄質・珪長質岩脈群に見られる卓越方位の形成メカニズム.
 奥野 充, 日本学術振興会国際共同研究加速基金 (海外連携研究), フィリピン, バタン島の考古遺跡から見たイラヤ火山の噴火史と台湾とルソン島の交流史.
 奥野 充, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), フィリピン・ルソン島のパイタン湖ボーリングコアによる高精度環境復元.

3.4. 2024 年度受賞

吉岡 拓郎, 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 学生優秀発表賞, 2024/5/30.
 岸田 明生, 日本古生物学会 2024 年大会, 学生ポスター賞, 2024/6/22.
 林 尚輝, 井上 淳, 日本第四紀学会 2024 年大会, 若手ポスター発表賞, 2024/8.
 井原 佑弥, 林 尚輝, 井上 淳, 日本植生史学会第 39 回大会, 優秀発表賞, 2024/12.
 植田 允教, 根本 達也, ラガワン ベンカテッシュ, GIS-IDEAS 2024, Best Poster Award, 2024/12/12.
 Lam Tran Tung, 根本 達也, ラガワン ベンカテッシュ, Truong Xuan Quang, GIS-IDEAS 2024, Best Oral Presentation Award, 2024/12/12.
 Ibrahim Danlami Mohammed, 根本 達也, ラガワン ベンカテッシュ, FOSS4G-ASIA 2024, Best Oral Presentation Award, 2024/12/16.

3.5. 2024年度メディア掲載情報

三浦 大助, 原子力規制委員会の石渡明委員が本学で講演・他, 産経新聞, 共同通信, 河北新報, 福島民報, 北日本新聞, 北国新聞, 2024/8/5-6.
 江崎 洋一, 大阪公立大学 プレスリリース「層孔虫はデボン紀の大量絶滅を生き延び、石炭紀に礁を形成! 礁生態系の定説を覆す新発見」2024/8/20.
 井上 淳, RCC 中国放送, 「イマナマ! (毎タローカルワイド) 広島平和資料館での黒い雨がついた「金屏風」の展示」2024/9/13.
 井上 淳, NHK, 「サイエンス ZERO 人新世 地層が語る“人間の時代”」2024/9/22.

Ezaki Yoichi, EurekaAlert! AAAS. Ancient reef-builders dodged extinction — at least temporarily. 2024/9/25.
井上 淳, NHK, 「クローズアップ現代 “黒い雨” 原爆が残した難問」 2024/9/25.
井上 淳, NHK 広島, 「お好みワイドひろしま 最新科学で挑む“黒い雨”」 2024/10/8.
根本 達也, 日刊建設工業新聞, 「地質データ標準化小委が始動」 2024/11/8
井上 淳, 読売新聞, 「池堆積物 震災の痕跡」 夕刊 9 面, 2025/1/11.

4. 地球学専攻・地球学科の関係行事

4.1. 2024 年度各種行事

(1)オープンキャンパス

8 月 10 日と 8 月 11 日に開催されたオープンキャンパスで, 地球学科は両日共に, 学科説明会, 模擬授業 1 件, 体験実験 2 件を実施しました. 地球学科への参加者の総数は約 600 人でした.

(2)地球学野外実習

野外実習 1: 9 月 18-20 日の 2 泊 3 日で実習を行いました. 巡検先は, 野島断層保存館, 淡路島の神戸層群, 白水峡, 神鍋高原, 玄武洞, 山陰海岸ジオパーク館, 鳥取砂丘でした. 山陰海岸ジオパーク館では谷本勇館長に, 鳥取砂丘では鳥取大学の小玉芳敬教授に解説いただきました.(担当: 奥野, 福田)

野外実習 2: 12 月 24-26 日に実施しました. 12 月 24, 25 日には西宮市仁川で地質調査の日帰り実習, 12 月 26 日には室内での地質図作成実習を行いました.(担当: 柵山, 足立, 伊藤, 林, 井上, 奥平)

(3)地球学談話会・サイエンス・フロンティア地球学セミナー

2024/7/17 (水)

Dr. Tran Văn ANH (Hanoi University of Mining & Geology) 「SAR Remote Sensing for Measuring Land Deformation」

Dr. Sittichai CHOOSUMRONG (Naresuan University) 「Geospatial Data Acquisition and Analysis Using IoT Devices and UAV」

Dr. Alinda KOKKINOU (Breda University of Applied Sciences) 「From Data to Impact: Building Data Analytic Capability as an Enabler of Organizational Performance」

Dr. Ondrej MITAS (Breda University of Applied Sciences) 「Measuring and Mapping Tourists' Emotions: A Geospatial Approach」

2024/10/21 (月)

Dr. Agung Harijoko (Gadjah Mada University) 「Complex Tectonic Interactions and Their Implications for Georesources and Geohazards Potential in Indonesia」

2024/11/26 (火)

Dr. Xianfeng SONG (Chinese Academy of Sciences) 「Advancing Hydrological Modeling with Open-Access Datasets and AI Technologies」

Dr. Rakesh Teja KONDURU (RIKEN Center for Computational Science) 「Harnessing Satellite Data Assimilation and Large Eddy Simulations to Unveil Extreme Rainfall Over Urban Skylines」

Dr. Yoko ITO (Osaka Metropolitan University) 「Utilizing the Open Geological Information Database」

Dr. Huidae CHO (New Mexico State University) 「Memory-Efficient Flow Accumulation Computing Using GRASS GIS」

2024/12/2 (月)

Dr. Iona McIntosh (Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology) 「How can we investigate past eruptions of submarine volcanoes?」

2025/1/28 (火)

Dr. Vinayaraj POLIYAPRAM (Rakuten Group Inc.) 「Advanced AI Application in Location Intelligence in the Era of Foundational Models」

Dr. Kamal RANA (OMNIVISION) 「Landslide Geometry and Topology for Elucidating Triggers and Movement」

Dr. Nobusuke IWASAKI (Tottori University) 「Exploring Segment Anything Model's Potential in Geospatial Data: Case Studies for Landslide Detection」

談話会はどこでも参加できます. 会告を知りたい方, 話題がありましたら世話人までご一報ください.

世話人 (柵山徹也, 根本達也)

(4)学外活動, 高大連携等

足立 奈津子, 大阪公立大学公大授業「サンゴ礁生態系の起源から探る生物多様性の歴史」, 2024/4/28.

井上 淳, 私立帝塚山学院泉ヶ丘高校の大学見学, 学部紹介, 2024/5/2.

三浦 大助, 大阪公立大学出張講義「火山噴火と災害」, NPO法人シニア自然大学校, 大阪産業創造館, 2024/5/8
三浦 大助, 奥野 充, 2024年度現地見学会「樽前山とその火山灰」. 令和6年度「原子力人材育成等推進事業費補助金(原子力規制人材育成事業)」地震・津波・火山の継続的人材育成を目指した体験重視プログラム(代表: 東京都市大学), 2024/7/2-4.

廣野 哲朗, 大阪府立大手前高校サイエンス探究最終発表会審査員, 2024/7/6.

廣野 哲朗, 大阪公立大学第19回女子中高生のための関西科学塾, 2024/10/27.

足立 奈津子, 大阪公立大学オープンキャンパス, 体験実験, 「いろいろな時代, かたちの化石を見てみよう」, 2024/8/10, 11.

根本 達也, 大阪公立大学オープンキャンパス, 体験実験, 「空から活断層を探そう!」, 2024/8/10, 11.

桑原 希世子, 兵庫県立明石北高等学校「大阪公立大学見学(研究室見学)」, 2024/8/27.

桑原 希世子, 大阪公立大学教育後援会「桑原先生に学ぶ地球学実習～中百舌鳥キャンパスツアー」, 2024/9/7.

伊藤 有加, 初芝立命館高等学校スーパーサイエンスハイスクール教育特別授業「Go STEM」, 2024/9/12.

三浦 大助, 講演会 大阪公立大学教育後援会(わがセンセの学(楽)問のススメ)「火山の噴火とその災害」, 大阪公立大学中百舌鳥キャンパスUホール白鷺, 2024/12/14.

廣野 哲朗, 大阪府立東高等学校 レクチャー理学編(地球学)「南海トラフ巨大地震」, 2024/12/18.

奥野 充, 尼崎小田高校, 大阪公立大学研修, 研究室見学「地形から読み取る地すべりや火山噴火の推移」, 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス, 2024/12/23.

桑原 希世子, 大阪公立大学博学連携講演会「『昭和』の
大阪—都市の歴史、大学の研究」2025/2/1.
足立 奈津子, 理系女子と科学倫理を考える日~第4回
Girl's Expo with Science Ethics~, 研究発表, 2025/2/11.

(5)その他

三浦大助, 奥野充, 桑原希世子. 2024 年度特別講演会「石
渡 明氏(原子力規制委員会委員) 自然ハザードに対
する日本の最近の原子力規制, 再審査及びバックフィ
ット」, 令和 6 年度「原子力人材育成等推進事業費補
助金(原子力規制人材育成事業)」地震・津波・火山
の継続的人材育成を目指した体験重視プログラム(代
表: 東京都市大学), 大阪公立大学中百舌鳥キャンパ
ス, 2024/8/5.

地球学科教職員等連絡先

地球学科への問い合わせは, 本年度学科長あるいは関
係の教員へ連絡ください. 連絡先は地球学教室のホーム
ページにあります.

<https://www.omu.ac.jp/sci/geos/introduction/staff/>

理学研究科・理学部 事務室

庶務, Tel, 06 (6605) 2501

教務, Tel, 06 (6605) 2504

Fax, 06 (6605) 2522

大阪公立大学大学院理学研究科地球学専攻・ 理学部地球学科 2024 年度年次活動報告 2025 年 5 月 9 日
編 集 瀬戸雄介
発 行 大阪公立大学大学院理学研究科 地球学専攻・理学部地球学科
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 (杉本キャンパス)
〒599-8531 堺市中区学園町 1-1 (中百舌鳥キャンパス)